

優秀賞

【未来へ繋ぐ大切な水】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 二年 児玉 結彩

私は毎日、当たり前のように綺麗な水を使って生活している。私の暮らす那須塩原市にはその水にまつわる歴史がある。

私の暮らす那須塩原市には、日本三大疎水の一つである那須疎水がある。現在は水が豊かで田畑も多く日本有数の米の産地となっているが、江戸時代の頃は広大な荒地であったらしい。当時、那須野ヶ原と呼ばれたこの地の大部分は扇状地特有の砂れき層となっており、地下水利用が望めなかったと文献にあった。山崎北華の続・奥の細道にも「那須野は聞きしに違わず、草も長からず木というものは木瓜さへもなし、炎暑の折等如何にぞや手に掬う水もなし・・・」とさながら砂漠を思わせる表現があった程だ。地表を覆う火山灰、乾ききった土地にまいた種は土ごと吹き飛ばされ、水は数キロ先まで汲みに行かなければならない。当時の過酷な状況は想像を絶するものであった。耕しても耕しても実らない作物、日々の飲み水を得るには何キロメートルも往復しなければならぬ。それは苦しく、辛いものであることが容易く想像できた。

この地で開墾事業が始まったのは明治時代。当時の華族や地元有力の資産家により大農場の開墾が進められたが、飲み水が少ない状態で開墾する事も困難な状況だったらしい。そこで印南丈作、矢板武、三島通庸が立ち上がり政府に水路開削を懇願。六回の懇願の末明治政府が動き、ようやく水路開削が始まる。

私は小学生の頃、この那須野ヶ原開拓の様子を学び、実際に当時開拓に使用した「もっこ」を使って、もっこ担ぎを体験したことがある。いざ肩に乗せ立ち上がるとあまりの重量に驚き、運ぶ間何度も休憩をとった。竹が肩にくい込み痛い程で、当時の人達は大変だったんだなと実感した事を思い出した。鍬やつるはしも小学生の私には重いものだった。先人達は、飲み水もままならない状態の中荒地を手作業で

掘り進めたのだと思うと、今日の前にあるコップ一杯の水でさえ貴重で有難いものなのだと思う。

優秀な技術者の尽力もあり、着工から五ヵ月後、十六・三キロメートルの水路が完成、各農場へ配水する分水路も追加で開削、総延長九十六キロメートルの疎水となった。かつて作物も作れなかった荒地に勢いよく流れる水。当時水路をこの地に作るかと立ち上がった先人達に思いを馳せると、とても嬉しく涙が出る思いだった。

今、私たちが当たり前に水を使い飲む事ができるのは、先人達の汗と努力の賜物である。この大切な水を後世に繋げていく為に、私達にできる事を考えてみた。

一つ目は家庭内でできる事だ。食事の際、油を排水と一緒に流さない。洗剤は使い過ぎない。蛇口から出る水に感謝して、必要な分だけ使用し、無駄に流さない。水を汚さず、節水する。日々心掛けてはいるが、今一度家族共々確認し、実践していきたい。

二つ目は環境について。ゴミの不法投棄により川や用水路が汚されている事案を耳にした事がある。水を汚す事は容易い事だが、汚れた水を綺麗な状態に戻すまでには沢山の労力と時間が掛かるのだ。私自身がゴミを捨てない事はもちろんだが、地域で清掃のボランティア活動がある際には積極的に参加していこうと思う。

最後は、実際に川に行き水への関心を深める事だ。今夏、日本遺産でもある那須疎水の旧取水施設を見に行った。川はあらゆる生き物達の命を支えてくれていると実感出来た。

私達は水が無いと生きていけない。先人達が後生に残してくれた大きな財産に感謝し、それを守り繋いでいくのが私達の責務だと思う。あなたも日々水に感謝し、自分が出来る事を真剣に考えてみて欲しい。私達の行動一つ一つで日本の水の未来は変わるのだ。

優秀賞

【かけがえのない水】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 一年 遠藤 絢那

日本では当たり前のように各家庭に水道が引かれ、そのお水をそのまま飲むことができます。しかし世界に目を向けてみると、水道水をそのまま飲む事ができる国は限られていて、アジア圏では日本のみで、ヨーロッパ圏ではオーストラリア・アイスランド・アイルランド・スロベニア・デンマーク・ドイツ・フィンランド・ノルウェー。アフリカ圏では南アメリカ共和国の9か国しかないそうです。なぜこんなにも国が水道の水をそのまま飲むことができないのか調べてみようと思いました。

水道の水をそのままのむことができない理由の1つとして「水源の確保が困難」という現状があります。この現状は日本にも関係しています。近年、日本の水源地域を外国に売ってしまうと考える高れい者の方々が増えてきているそうです。

水源とは「川などの流れ出るもと」または「用水や水道として利用する水の供給源」のことを指します。そのため水源が外国の方の手にわたってしまうと、水を使う権利が奪われてしまい、日本人が自由に使える水の量が少なくなってしまうたり、水道料金があがりたりする可能性があると考えます。

日本では水道料金が10³m³1か月あたり役1560円と比較的安いです。1番安い国は、アメリカのマイアミ・デイドで約580円。1番高い国は、アメリカのサンディエゴで約5427円日本の約3倍の料金です。

このように水道料金にも目を向けてみると、日本は水にめぐまれていることがわかります。そのため外国の方から水源が狙われるのだと私は考えます。

北海道を例に考えてみると、外資による山林買収状況は、2010年は43件831haだったのに対し10年後の2020年には4

65件7560haになっています。10年間で件数は約11倍。面積は約9倍に増加しています。この現状は、今後北海道以外の都道府県にも関係してくると考えます。

水源を保護する取り組みをしている都道府県もあります。本県栃木県では、「水源地域内における森林の土地売買には事前に届け出が必要」という決まりがあり、滋賀県栗東町にも「栗東町水道水源地域保護条例」などがあります。このような条例が令和6年7月1日時点では20の道府県で制定されているそうです。これから水源保護に関する条例や法律を定めていけば、水源や水を日本人が自由に使える資源として保護することができるようになると思います。

これら以外にも水資源に関する問題があります。例えばそれは都市化に伴う舗装による雨水の地下浸透の低下・私たちの生活や産業活動による水利用の増加などです。また、水源林のある山村地域での人口減少と高れい化で森林の適切な管理ができなくなっていることから、森林のかん養機能の低下も危がされています。このようなことは、少子高れい化や気候変動が原因とも考えられます。

これらに対処するために私たちにも行動できることがあります。節水すること・汚れのものを流さない・地域の川の水源を求ることです。8月1日は「水の日」8月1日から7日は「水の週間」です。水について考える日になっています。

昔から日本には「湯水のように使う」という慣用句があります。この慣用句の意味は、「湯や水のように惜しげもなく」または「無駄に」などの意味があります。このような言葉も今後水源保護の対策をしつかり練らないと、あと数年したら使えなくなってしまうかもしれません。そうならないように日頃から水を大切に使うように心がけたいと思います。

優秀賞

【私がやらずに誰がやる】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 一年 横尾 美月

私は疎水の町に住んでいます。福島県の安積疎水、滋賀県の琵琶湖疎水と並び、日本三大疎水といわれる栃木県的那須疎水です。私が住む那須塩原市は新幹線や高速道路が通り東京からのアクセスがよい、ため、観光はもちろんベッドタウンとしても人気があります。しかし、江戸時代には水利が悪く人の手が入らない原野で、山崎北華の紀行文『蝶の遊』には「聞きしに違はず。草もハマダ長からず。木といふものはボケさへもなし。炎暑の折など如何にぞや。手してすくふ水もなし。」と書かれているそうです。ボケは真夏の特に乾燥するとき以外は水やりが不要なほど乾燥に強い植物です。そのボケさえ育たないとは、どれだけ荒れた土地だったのでしょうか。

小学校の地域の学習で、私たちは那須野が原の開こんの歴史について学びます。校外学習で疎水の取水口を見に行ったり、博物館では資料の見学だけでなく、もっこ運びや水くみ体験をしました。

「明治時代に印南丈作、矢板武、三島通庸という人たちが荒れた土地だった那須野が原に総延長二四六キロメートルの水路を整備し、約四六〇〇ヘクタールもの土地をうるおしました。」

その頃は難しいことはわかりませんでしたが、「私が今ここで普通の生活ができていることは、すごいことなんだな。」

と思ったのを覚えています。

「水を大切に」と口では言いますが、蛇口をひねれば水が出てくることを当たり前だと思っている日本人は、本当に水の大切さをわかっているのでしょうか。私自身も水について知らないことが多いと思います。調べてみると、二〇二三年時点で約二億人が「安全に管理された飲み水」を使用できずにいて、これは世界で四人に一人に当たるといいます。そのうち一億一五〇〇万人は湖や川、用水路の不衛生な水を使

用していて、抵抗力の弱い子どもなどは病気にかかり命を落とすこともあるそうです。また、世界では約一八億人が自宅に水道が設置されておらず、そういう家庭では女性や子どもが水くみの役割をしています。水くみに多くの時間を費やさなければいけない女の子たちは勉強の時間を奪われたり、遠くまで水くみに行く道中で危険な目にあったりしているそうです。そして何より驚いたのは、地球の表面のおよそ三分の二が水でおおわれているのに大部分が海水で、淡水が占める割合は三パーセントに満たないということ。人が利用しやすい河川や湖の水源に限定すると、地球上で使用できる水の量は全体の〇・〇一パーセントに過ぎないということです。

「水は限りある資源であり、私たちの生活に関わる大切なものである。」このことを私たちはしっかりと意識しなければなりません。まずは無駄遣いをしないこと。洗顔や手洗いするとき一分間の出しっぱなしで一二リットル。食器洗いするとき五分間の出しっぱなしで六〇リットル。入浴のとき一分間のシャワーの出しっぱなしで一〇リットルの水が無駄になると言います。蛇口を閉めるだけ、ただそれだけでペットボトル五本以上の水を無駄遣いせずにはすむのです。当たり前といわれるこのことを、まずひとりひとりが心掛け、実感すること、水が大切なものであるという意識が生まれてくるのではないのでしょうか。

気候変動や人口の増加で水の問題はさらに深刻になっていくと言われています。その中で個人にできることは無駄遣いをしないという小さなことです。しかし、自分がやること、行動を起こすことが大事なのです。水の大切さ、水のありがたさを身をもって知っている疎水の町に住んでいる私が、まずやらなければ。

優秀賞

【ダムを通して考えたこと】

栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校 一年 金 悠俊

この夏休み中家族でダムの建設現場を見学する機会があった。間近でダムを見ることはあまりないので、想像以上に大きくとても驚いた。橋の上から見た景色は圧巻だった。とても強い日差しの中で働く工事現場の人達を見て、大変だなあと思った。

ぼくが住む鹿沼市に建設中の南摩ダムは、一九六九年から工事が計画され、二〇二五年に完成が予定されている高さ八六・五メートルのダムだ。黒川や大芦川と南摩ダムとを導水路で結び、河川の水が多いときはダムに水を貯め、水が少ないときはダムから河川に水を補給することで、効率的に水資源の活用を図っている。また、ダム下流の南摩川や思川の河川の水が少ないときにもダムから河川に水を補給することができそうだ。今までダムについて考えたことがなかったのので、調べてみることにした。

今回、南摩ダムを建設している思川開発事業は、河川の洪水被害や水不足に対処するための三つの役割を担っているそうだ。一つ目は治水だ。治水とは被害を防いだり、運輸の便をはかったりするために、水流、水路の整備・改良・保全を行うことである。南摩ダムは、ダムへ流れてくる水量毎秒一三〇立方メートルのうち、毎秒一二五立方メートル、東京ドーム約四杯分を貯め込み、下流には毎秒五立方メートルだけを落下させる。こうすることで下流河川の増水や洪水を減らすことができる。それによって、近年増えている大雨の被害から私たちの命や生活、財産を守ることができる。

二つ目は、利水だ。利水とは、田んぼや畑などに水を送り届けたり、生活するための水を用意したりすることである。南摩ダムが建設されることで、栃木県、鹿沼市、小山市、古河市、五霞町、埼玉県及び千葉県城水道企業団の水道用水として、最大で毎秒二・九八四立方メートルを新たに供給することができる。ぼくが毎日何気なく使っている

水道水も、たくさんの人達の努力によって届けられているのだなあと感じた。

三つ目は、流水の正常な機能の維持だ。南摩ダム及び導水路によって、農業などにおいて、河川からの取水が既に認められている用水である既得用水の安定化及び河川環境保全などのための流量の確保を行い、渇水による瀬切れを解消することができる。瀬切れとは流水が途切れてしまう状態のことであり、瀬切れが起きると生物や漁業、景観、レジャー等に悪影響を及ぼしてしまう。このように、既得用水や河川環境などのための水を補給する働きをダムは持っている。

今回、ダムの建設現場を見学したことで、今まで考えたことのなかったダムのことについて調べて、学ぶことができた。ダムはあまり身近に感じていなかったが、自分の生活と深く結びついていることが分かった。改めて考えてみると、水は朝起きてから夜眠るまで毎日必ず使う、なくてはならないものだ。ぼくも朝、顔を洗ったりお風呂に入ったりするのに使っている。他にも、毎日の食事や飲料水、トイレにも使われている。もし水がなかったら、これらのことは全て行うことができない。そう考えると、水はとても大切なものだと思えて感じる。水は、洪水などの自然災害で人々に影響を及ぼしてしまいうこともあるが、今回調べたダムのように私たちが人間が水を上手にコントロールすることによって、自然災害を未然に防ぐことができる。そのように、多くの人々の働きによって、ぼくの生活が支えられていることが分かった。ぼくたちの生活に欠かせない水をこれからも大事にしていきたい。また、ぼくも、水と人とのよりよい関係を保てるように、自分たちに何ができるか考えてみたい。

優秀賞

【きれいな水を世界に】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 一年 築瀬 琳

私は普段、「水」について考えたことがなかった。しかし、この作文をきっかけに考えてみようと思った。私の毎日は、まず顔を洗うところから始まる。水道の蛇口をひねって出てきた水で顔を洗う。そして、コップを取って水を飲む。朝食を食べて、歯磨きをする。そして、うがいをする。学校へ行っても、喉がかわいたら、水筒に入った水を飲む。夜には、お風呂でシャワーを浴びる。そして、寝る前にまた、水を飲む。それだけではない。私が毎日食べているお米は、私の地域にある川の水を使い、田んぼで祖父と祖母に育てられたものである。このように、自分の生活を振り返ると、水は私にとって欠かせない存在であり、私と深く関わっていることがわかった。

私は、水がなく、大変な思いをしたことは特にない。それは、毎日きれいな水が、当たり前のように、水道から出てくるからだ。私の住んでいる栃木県は、川から水を取り寄せている。栃木県の湧水は、「尚仁沢湧水」と「出流原弁天池」という湧水が、環境省の「名水百選」に選ばれている。このめぐまれた環境のおかげで水が身近に感じられ、水という存在が当たり前になっていた。

しかし、そうではない地域があるとインターネットで知った。今、安全な水を手に入れない人は、世界に六億六千三百万人もいるということ。毎日、八百人もの子どもが、汚れた水などが原因で命を落としていくということ。そして、水を手に入れるにも一日中かかり、その水が必ずしも安全というわけではないということ。この事実を知り、とてもおどろいた。また、水道がない地域では、水を手に入れるのに一日中かかるから、私が毎日当たり前と思って生活していることができないということを知った。例えば、自分の好きな事をする時間はもちろん、学校の授業を受ける時間すらなく、教育が充分ではないのだ。このことから、「水」という存在がどれほど大切なのかがわか

った。

そこで、私にも何かできることはないか考えた。水がないところに水を作ることなど、大きなことはできないから、小さなことから始めようと思った。まずは、水をきれいにするとところからだ。私の住む地域には、近くに川があるため、その川の掃除や、川に異変がないか調べる生き物調査、川のまわりのゴミ拾いなどの活動をしている。川をきれいにすれば、その川が他の川とつながり、そして海へいき、海に流れた川の水は、害がなくきれいなものになるだろう。そうしたら、汚い水が原因で命を落とす人々が減るかもしれない。私たちの活動ひとつで世界が変わるかもしれない。しかし、逆にも考えられる。無配りよで、川や海などにポイ捨てをしたりする場合、世界の海はひとつにつながっているため、海が汚染されてしまう。だから、一人一人が気をつけなければいけなくて、私たちにも、水をきれいにする使命があると思った。こう考えてみると、いつも何気なく行っていた活動も、もっと責任感を持つて取り組むべきだったと後悔した。今度、地域活動で川のまわりのごみ拾いが行われる。その時は、いつもより、責任感を持つて、真剣に取り組みたいと思う。また、地域活動だけではなく、普段の自分の生活も、水をむだ使いないようにする、水を汚さないために食べ残しをしないようにするなど、水の大切さをいつも心にとめて生活していこうと思った。

そして、今は、まだ難しいかもしれないけれど、いつかは、海や川をきれいにし、誰もがきれいで安全な水を飲めることが「当たり前」にしていきたい。今日も、私は当たり前前のように水を飲んだ。しかし、いつもよりなんだか甘く、おいしく感じられた。

公益社団法人日本水道協会栃木県支部長賞

【水の重要性和水に関する問題について】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 一年

案田 葉月

私は幼い頃、水がきらいでした。特に顔にかかるのが大の苦手で、よく母を困らせました。ですが今となつては、体育での水泳も大好きで、楽しく参加できています。そうなれた理由のひとつに、水を好きになるにはどうしたら良いかと考え、色々な事を調べた事で興味を持つようになったことが考えられます。

私達自身の体や日々の生活・社会にとって必要不可欠な水ですが、特にその重要性を感じたのは「災害時」です。今年もお正月から大きな地震が起き、ニュースや新聞等で、たくさんの方が避難所で不便な生活をしていたり、水の確保に苦労している姿を目にしました。日頃からの備えの大切さと、普段から水を大切にできていたのだろうかと思えるきっかけになりました。

災害時になぜ水が重要なのかを調べました。大きく分けると、衛生環境を整える為と飲用水として必要な為という二点があげられます。衛生環境を整えるという事は、体を清潔に保ち、感染症を予防したり、食中毒を予防するための手洗いやトイレを利用するための水として利用することです。飲用水は、脱水症状を防ぎ、水分不足により血流が悪くなるのを防ぎます。血流が悪くなると様々な病気を引き起こすそうです。例として、様々な感染症やエコノミー症候群などが考えられます。

成人一人当たりが一日に必要なとする水分量は三リットルです。（政府広報オンラインより）水を使えない環境が、被災した方のストレスとなり、健康状態を保てなくなる大きな要因となります。近年日本では、地震だけでなく、気候変動による集中豪雨や河川の氾濫、土砂災害の被害が相次いでいます。誰もがいつ被災者になってもおかしくない状況です。日頃からの非常事態への備えの重要性を改めて感じまし

た。

次に、水に関する問題について調べました。安全な水を常に利用できる日本ではあまり感じないかと思いますが、世界では深刻な水不足が問題になっています。水不足の原因とされているのが、人口増加や気候変動です。人口が増加するという事は、それだけ生活に必要な不可欠な水の使用量も増えます。気候変動については、地球温暖化による影響が大きな要因です。地球温暖化とは、急速に地球の平均気温が上昇している現象をいいます。温暖化すると強い雨が增える頻度は増え、一方弱い雨の頻度が減ります。弱い雨も降らない日数が増え、それによつて干ばつの日数が増えることで水不足につながります。

水に関する問題について調べるなかで、私が気になったことは、温暖化による地球への影響が大きい事です。様々な悪影響があり、恐怖感を覚えました。海面上昇や食物連鎖の乱れ、氷河がさらに溶け、眠っていた遙か昔の未知のウイルスが解放されるかもしれないことを知りました。

私が今後の生活で出来ることは、節水、冷暖房の温度の調整、災害への備えです。少しでも二酸化炭素の排出を軽減し、温暖化のスピードを抑え、快適に過ごせる生活を守っていききたいと考えます。安定して水が使える現状を当たり前と思うのではなく、水の大切さについて改めて考えることが必要です。一人ひとりがしっかりと水の重要性を考えながら過ごすご事で、未来は少しずつ変わっていくと考えます。今回調べ、学んだことを日々の生活に活かして過ごしていきます。自分のことだけでなく、日本全体や、世界で起きている問題にも目を向けていきたいと思っています。水の重要性や問題を理解し、その問題についても考えて過ごしていきたいです。

国土交通省鬼怒川ダム統合管理事務所長賞

【月面都市計画に欠かせない水の存在】

栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校 一年

吉田 華瑚

水は生まれた時から身近にあって、蛇口をひねれば出てくる。それが当たり前な生活だ。日本の水道水はそのまま飲むこともできる。しかも、私の住む宇都宮の水は厚生労働省で定められている「おいしい水」にあてはまるおいしい水道水。数年前までは家でも学校でも、普通に蛇口から直接水道水を飲んでいた。

その生活に変化が起きたのは、コロナ渦になってからだ。水道の蛇口を介してコロナ感染が起きたことで、学校では感染予防のために水道水を飲むことが禁じられた。毎日、水筒を持っていくことが当たり前になり、コロナが落ち着いてきてからも水道水を飲むことはほぼなくなっている。家では飲むことはあるが、以前よりも減っている気がする。同時に、水を買うことが当たり前になってきた。

また、ちょうどコロナ渦であった小学校三年生の時、社会で上下水道について習った。その時に、水の循環や浄水場の働きについて知り、普段蛇口から出ている水はお金がかかっていることが分かった。それまでは、「水を出しっぱなしにしないで」「水、もったいないよ」と母に注意されてもそこまで気にしていなかった。授業で習ってから、改めて水の大切さを知って、無駄に使わないように意識するようになった。

さらに、四年生の理科では、水の状態変化について実験をした。水は冷やせば氷になり、熱すれば水蒸気になる、ということを知った。水を冷凍庫に入れて氷を作る、ということ普通をやっていたが、授業で習ってから、水の奥深さを知った。

そして、最近、水を電気分解すると、酸素と水素に分かれることを知った。知ったきっかけは、月面都市計画について調べたことだ。私は、宇宙や月にとっても強い関心がある。宇宙飛行士がロケットに乗っ

て宇宙や月に行ったり、衛星や探査機を送り込んで、たくさんの実験や調査を行っている。本やインターネットで情報を集めていると、月に都市を作る計画があり、二〇四〇年代にはその月面都市ができるらしい、ということを知った。私は三十歳前後になっている。その時、私は月面都市にいるのだろうか？想像するだけでわくわくする。その月面都市計画だが、月に都市を作る人々が住む、ということに欠かせないのが水の存在だという。水がなければ生活をすることができない。その水が、月には六十億トンあるらしいという調査結果がある。その水を利用することで、飲み水や植物栽培に使えるだけでなく、電気分解をして酸素と水素を取り出し、酸素は呼吸に、水素は発電や燃料に使えるという。発電や燃料に使えば、生活の幅が一気に広がる。実際に実用可能か、実験が進められているそうだ。

私は、水にそのような力があることを知り、改めて水の貴重さと重要さを感じた。思えば古代四大文明も川の近くで誕生している。人々が集まり生活していく中で、飲み水や食物の栽培として、また生活上の衛生を保つためには大量の水が必要で、さらに物を運ぶのにも水は便利だった。川の近くというのは、文明の発展に不可欠な環境だったのでろう。同じように、月でも大量な水が確保できれば、大きな発展につながる。月面都市計画の成功のカギであろう水の存在、今後の調査や実験結果が非常に気になる。

独立行政法人水資源機構思川開発建設所長賞

【水に関わる問題について】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 一年 佐々木 恵那

今、世界中で水に関わる問題は、私の知る限りでもかなり多く存在しています。そのうちの一つ、「水を飲まない子ども」という問題を私は取り上げてみました。

「水を飲まない子ども」というのは、言葉の通り水道水や水のペットボトルなど、なんの変哲のない水を好き嫌いという理由で飲まない子ども達がいるということです。飲めない理由としては、味がしないからなどが挙げられるとのことです。

私がこの事について初めて知った時に一番最初に頭に浮かんだことは、過去の自分の行動でした。なぜなら、私は水を全く飲まない訳ではないですが、水が嫌いというわけではないのにもかかわらず、なんとなく、水を飲むのを避けていたからです。その理由は、「どうせ飲むのなら味のついているものを飲んだ方が得なのでは」と考えていたからです。しかしよく考えてみると、水にもそれぞれに味があり、水には水の良さがあるのではないのかと思いました。私は那須町に住んでおり、那須町の水道水は地下水や湧き水等が多く使われているとのこと。これら二つはミネラル成分が多く含まれており、美味しく感じると言われています。つまり私はいつでもそんな美味しい水を飲むことができます。しかし、飲むうとしなかった。今更ですが、味のついているものを飲んだ方が得というより、今当たり前にあるものの存在を軽んじていたことでの損の方が大きいのではないのだろうか。そう考えました。

あまりにも当たり前のように飲んでいたからこそ、そのものに対しての感謝を私はしていなかったと反省しました。また、こういった、「水を飲まない子ども」がいるということを知った時に過去の反省をしたことの他に、その水を飲まない子どもに対し、なんでなのかと思いました。しかし私はその子ども達と似たようなことをしていました。

自分のことは棚に上げてそのような考えをしていました。水への感謝を軽んじていたこと。自分のことを棚に上げて物事を考えていたこと。これら二つを反省できたのは、偶然にも「水を飲まない子ども」がいるということを知ったからです。普段から記事などを読んでいれば、多くの知識を得られる他、今回の私のように自分自身を見直すことができます。

今回作文として自分の状況を整理してみ、改めて当たり前に飲んでいる水の大切さ。そして自分自身を見直すことの大切さを学べました。今回は飲み水に対する問題について考えましたが、まだまだ水に関する問題は溢れかえっています。例えば、ゴミなどによる水質汚染や、温暖化による水面上昇。また、水を好き好んで飲まないのではなく、水を「飲めない」人々や衛生状態が良くない水を飲まざるをえない人々がいます。そんな人々がいる中、私はいつでも蛇口をひねれば美味しくきれいな水が出てきます。そのため罪悪感などを感じることはありません。そんな罪悪感を抱いているのにもかかわらず、時間が経てばそのような感情すら忘れてしまう。これが今の私達にとっての一番の問題だと私は考えます。今当たり前にあるこの日常がどれだけ幸せなことなのか。きつと私はまだそれを理解できていません。誰もが美味しい水を飲めるようにするには、まずはいつでも美味しい水を飲むということができる私達の意識を変えなければならぬのではないのでしょうか。今回の作文を書いて考えたこと。分かったこと。これをいつまでも忘れないよう、自分の心にしっかりとしまっておこうと思います。水という私達にとっては目の前に当たり前にある存在に對して、またその他のものに対して、何事にも感謝の心を持つということをこれからの生活の中で培っていききたいです。

栃木県企業局長賞

【環境について知ること】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 一年 高久 真綸

私は、水に関する作文を書くとき頭に浮かんだことが災害と水質汚染についてでした。

私のなかで、災害といえば東日本大震災が思い浮かびます。東日本大震災が発生したとき、私はまだ生まれていませんでした。家族に聞いたところ、しばらく電気や水道が止まりとても大変だったそうです。料理に使う水や飲む水は限られ、体はしばらく洗えず、トイレも使えない。今、そうなってしまうかもしれないと思うと不便で嫌、そして準備やそなえが足りているか不安になります。このことから、普段私達が水を多く使っていて生きるために必要不可欠であることが分かりました。最近、よくニュースで南海トラフという言葉を目にします。九州から東北まで、広い範囲で被害が出ると予測され、私の住む高根沢町にも大きな被害が出てしまうかもしれません。東日本大震災のようないきにならないよう、防災グッズを整える等、意識をして対策していきたいと思います。

また、水といえば近年問題視されている水質汚染問題も思い浮かびます。今年行われたパリオリンピックではセーヌ川の問題が大きく報道されてしまう事態になりました。トライアスロンで使用するセーヌ川は、雨水と生活排水が混ざって通常より大腸菌などの細菌がはるかに多く一九二三から遊泳が禁止されていました。今回オリンピックを行うにあたって水質調査をし安全という結果になったそうですが、トライアスロンの選手はゴールにたどりつかずに吐いてしまう人が少なくなかったそうです。水が汚れていると、泳ぐこともままならないことから人間にとって水は大切なものであることがわかります。川や湖、海の水質汚染の原因となるゴミのポイ捨てをしないことを普段から心がけることで、日本の環境を守っていききたいと思います。さらに、持続可能な開発目標も水に関わるものがあります。遠くま

で、きれいな水をくみに行くため学校に行けない子供達や海のマイクロプラスチック問題です。生活するために遠くまで水をくみに行く生活を毎日続けている人がいると学校で習ったとき、私は心が痛くなりました。当たり前のように蛇口をひねると水が出てくることも当たり前ではなく感謝しなければいけないと改めて感じました。また、遠くまで水を毎日くみに行くほど大切でなくてはならないことを忘れないようにしていきたいです。それから、海のマイクロプラスチック問題の原因であるゴミのポイ捨てをしないように心がけていきたいです。栃木県は海がありませんが、海でおこるマイクロプラスチック問題は同じように川でおこる可能性もあります。ゴミのポイ捨ては人間だけでなく、他の生命体にも被害がおよんでしまうことを忘れずに環境を大切にしていきたいです。

中学生の私には、環境のためにできることがかなり限られています。しかし、だからと言って何も気にせず地球を汚していくことは良くないと思います。そのため、中学生の私もできることを三つ考えてみました。

一つ目はゴミのポイ捨てをしないことです。川や海の話のときに書いたように、ゴミのポイ捨てをやめることは環境を大切にする第一歩だと思っています。

二つ目は、節水です。この作文を通して、水の大切さを改めて感じる事ができました。水は地球の大切で限りがある資源です。この資源を無駄にせず守っていくことが地球を大切にすることだと思います。

最後に、私が環境のためにできること三つ目は、環境問題を知ることです。環境問題について知ること、地球のことを知り将来環境のためにできることを増やしていくことだと思います。

栃木県道路河川愛護連合会長賞

【水不足にならないために】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 一年 齋藤 有那

「じや口をひねったら清潔で飲める水が出てくる。」それが当たり前だと思っていた。でも、この作文をきっかけに水に関する問題を調べていくうちに、さまざまな問題を抱えていることが分かった。

まずは、私が住んでいる栃木県の現状を知ろうと思う。今年の梅雨が平年より短かったため、七月二二日に栃木県と茨城県に流れる鬼怒川では、六年ぶりに取水制限が行われているそうだ。それに、六月の降水量が例年のおよそ六〇パーセントにとどまっていて栃木県日光市内にあるダム貯水率が低下していることが分かった。そして、少しづつ水不足に近づいているという現状を知った。この記事を読んで世界の水問題に興味を持ち、調べてみようと思う。

特にショックを受けたのが、発展途上国の問題である。発展途上国の子供達の多くが池や川、野ざらしの井戸などの飲用に適さない水源に頼るしかない。そして、ようやく水源にたどり着いてもその水の多くの場合泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水だそうだし、しかも、それを飲み水として使っている。その結果、感染症を引き起こし、命を落とす子供が毎年三〇万人いるそうだ。さらに悪いことに、子供達は水を確保するために、一日中水くみに行かなければならない。そのせいで、子供達は学校に行って学ぶこともできない。水問題は、衛生面だけの問題ではなく、子供達の未来までうばっているのだ。

また、私たちが住んでいる地球は「水の惑星」と呼ばれている。しかし、人間が使える再生可能な水資源は、地球上の水のわずか〇・〇一パーセントしかない。しかも最近の地球温暖化や今後の人口増加や気候変動により、世界で水不足になるのではないかと予想されている。そんな貴重な水を、日本に住んでいる私達は何不自由なく使用できる環境に感謝しなければならぬ。それに、自分達だけが良ければそれで良いという考えを捨てなければならない。そして、「水の惑星」

に住む全ての人がその恩恵を受けられるような社会を私は作りたいと思った。

具体的に私達ができることは何かを調べていると、日本のある企業が水不足地域にこうけん活動をしていることを知った。集めた寄付金を付加って水道やトイレなどの施設などを作っているそうだ。それにより汚水ではなく真水を飲め、下痢や感染症が減っている。日本の支援により水の環境が良くなっていると感じる。このまま続ければ世界中の子供が元気に学校に行けるようになると思うととてもうれしくなる。世界の水問題の一端は私達にも責任がある。なので、国や会社などの大きな組織だけではなく、個人でもできることから取り組みことが私達に課せられた使命だと感じる。

私の住んでいる近所では、ごみ拾い活動を行っている。小さな活動だけど、もし私の市の人全員がこの活動をするとする。一人一つ拾うだけでも、約一万个のごみがなくなることになる。毎日行えば、数えられないほどのごみが拾え、この市からごみがなくなる日が来るかもしれない。このように、小さな活動でも継続すれば決して小さな活動とは言えなくなる。手を洗う時に水を出しっぱなしにしないことも同じだろう。日本中の家庭が節水をしたり、汚染物を流さなかったりすることの大切さを改めて考えさせられる。

同じ「水の惑星」に住む私達が平等にその恩恵を受けられるような社会の実現のためにも、これからも私は環境問題に興味を持ち続けたい。そして、水を守るために私にできることを続けていきたいと思う。

栃木県土地改良事業団体連合会長賞

【当たり前前ではないこと】

上三川町立明治中学校

二年

浅野 奏恩

水は、私たちが生活する上でとても身近にあるものです。料理に使ったり、手を洗ったり。水という飲み水を連想しがちですが、全体の使用量からみると、その割合はほんのわずかにすぎません。お風呂が最も多く、全体の四十パーセント。次にトイレが二十一パーセント、炊事十八パーセント、洗濯十五パーセントとなっております。これらで一日の使用量の九割以上を占めています。つまり、水は日々の生活に欠かせない大切で貴重な資源なのです。さらに、清潔で安全な水があることで病気の予防もできます。手を洗ったり、食べ物を洗ったりすることで、健康を守ることができます。しかし、このことが当たり前だと思っただけではありません。日本は、世界の中でも水道水の水質が非常に良いことをご存じでしょうか。水道水を飲むことができる国は日本以外にもありますが、日本は厳しい管理によつて他の国よりも安全性が高い水道水であるとされています。

私は、水について考えることがありませんでした。そのため、水の無駄遣いしていたことが多くありました。祖母に、

「水止めて」

と言われたときには、

「少しだけならいいじゃん。」

と思ってしまうことがありました。もし、この少しの水を貯めてみたらどのくらいの量になるだろう。おそらく自分が思っているより大量の水を無駄遣いしています。

最近では、インターネットが普及され色々な情報が簡単に手に入るようになりました。そのため、水について知ろうと思い、調べてみました。調べていくうちにある記事が目に残りました。その記事の写真には、茶色くにごった水を飲む男の子が写っていました。私はとても驚きました。なぜなら、勝手に飲み水は「透明」だと思っていたか

からです。しかも、男の子が飲んでいる水は買ってきたものではなく、池や川、野ざらしの井戸などから汲んできた水だと載っていました。水を運ぶために学校にも行けず、やっと手に入れた水で病気になったり、命を落とす子供も多いそうです。きれいな水が身近にある私は、水で命を落とすことが考えられませんでした。

しかし、日本にも水問題があります。それは渇水です。地球温暖化の影響で雨や雪が降らないことにより起こる水不足です。日本は、水が豊富な国ではありませんが、気候変動によつて渇水が起きてしまっています。その原因が、日本の地形にあります。日本の河川は、短くて急な河川が多いです。そのため、水の流れが速く、水が安定して確保することができません。実際に生活で使える水の量は人口一人あたり世界平均のおよそ四十五パーセントしかないそうです。きれいな水を未来に残すためにできることはたくさんあります。家で、できることは節水です。例えば、洗濯、トイレなどの水の無駄遣いを減らすことです。洗濯の回数を減らす、またトイレの水の量を調節するなど小さなことでも水を節約することができます。外に出たときには、川や池などにゴミを捨てずに持ち帰り、水を汚さないことが水を守ることにとても大切です。

私は、節水を意識することがありませんでしたので、実践していきなさいです。水資源を守り、未来のためにできることはたとえ小さなことでも行動に移すことが重要です。水の大切さを心に留めて、生活していきましよう。

一般財団法人栃木県環境技術協会理事長賞

【節水と地球温暖化の関係】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校

一年

高野 清藍

私は最近、塾へ行く最中に、激しい大雨が降ってきたことがあります。そのとき私は水って恐ろしいなと思いました。しかし、本当に恐ろしいだけのものなのかと思い、水について深く考えてみることにしました。

私たちは普段、様々な場面で水を利用しています。例えば、水を飲むとき、お風呂に入るとき、トイレに入るとき、手を洗う時、料理をするときなど様々です。では、私たちは一体一日にどのくらいの水を利用しているのでしょうか。日本人が一日に使う水の量は、一人当たり約二百八十六リットル、つまり、二リットルペットボトル約百四十三本分も水を使っていることになります。また、東京都水道局のホームページによると、洗面・手洗いをするとき、一分間出しっぱなしにすると、約十二リットル、歯磨きをするときに三十秒間出しっぱなしにすると約六リットル、食器洗いの時に五分間水を出しっぱなしにすると約六十リットル、洗車のために水を流しっぱなしにすると約九十リットル、シャワーを三分間出しっぱなしにすると約三十六リットルと、多くの水を使っています。

世界中には、日本のように、水道水を飲み水として利用できる国はわずか十二か国しかありません。飲み水が簡単に手に入ることがなく、井戸に汲みにいかなくはならない国や、水道水が汚く、安全な水ではないため飲み水として使用できないため、ペットボトルの水を買いに行くことが一般的となっている国が多いのです。このことから、日本はとても飲み水に恵まれていることがよくわかります。しかし、水は無限にあるわけではありません。そのため、無駄遣いをせず、節約して最低限の水を使うことが良いと思うようになりました。では、水を大切に使うためにはどうしたらよいのでしょうか。例えば、歯磨きをするとき、水をコップに汲んで使うとどのくらい節約できるでしょ

うか。三十秒間出しっぱなしにすると六リットルもの水を使ってしまう。しかし、東京都水道局のホームページには、コップに汲むと、約〇・六リットルで済み、約五リットルも節約することができると書かれていました。また、洗車をするときはどうすれば節約できるでしょうか。車を一台洗うのに、ホースを使うと、約九十リットルの水を使います。これは、水をバケツに汲んで使うことによって、約三十リットルで済み、六十リットルも節約することができます。また、水道水を使用するためには浄水槽やポンプなどエネルギーを必要としています。そして発電の際には二酸化炭素が発生します。つまり、水を大量消費することはそれだけ二酸化炭素が増大し、地球温暖化に影響してしまいます。したがって、水の使い方次第で地球環境にも影響するということがわかりました。歯磨きを例に考えると水を三十秒間出しっぱなしにすると約一・四グラムの二酸化炭素を排出します。しかし、コップを使えば〇・二グラムで済み、なんと七分の一まで削減することがができるのです。他にも日常生活で使用する水の節約を続けていけば二酸化炭素の排出量を大きく削減できると思います。

この作文を書く前は、水について深く考えたことはなかったのですが、改めて「水」という身近なものについて深く考え、調べてみると、少しの間水を出しっぱなしにするだけで二リットルペットボトル百本以上もの水が無駄にしていると分かり、大変驚きました。また、節水を行うことで二酸化炭素の削減にもつながり、地球温暖化を防ぐこともできるとわかりました。これからは、調べて分かったことをうまく活用して、細めに水道の蛇口を閉めるようにして、節水を心がけていこうと思います。

一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団理事長賞

【水で困らない世界を作るために】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 一年 塚原 悠里

現在、地球温暖化が深刻な状況だと言われている。具体的にどんなことが懸念されているのかを知るためにインターネットで調べてみた。大きな問題の一つとして水不足が挙げられる。干ばつや地下水の減少、食料を作るための農業用水、産業用水などが十分に得られなくなっている。また、世界の四十パーセントに当たる約三十六億人が水不足に悩まされている。そして、毎日多くの子供達が不衛生な水が原因で死亡している。

このような水不足を私達自身が何か取り組むことができないかと考えた。インターネットで調べてみると、生活の中で一番無駄遣いをしているのがお風呂に使う水だそう。風呂水には約二百リットルの水を使っている。また、歯磨きは三十秒間水を流しっぱなしの場合は、約六十リットル使われている。

水の対策として五つ考えられる。洗濯やトイレの水の無駄遣いを減らす。洗濯はお風呂の浴槽の残り水を掃除や洗濯に使う。調理器具や食器は、油や汚れを拭いてから洗う。石けんや洗剤を使いすぎない。世界のSDGs目標6に関する現状を知る。

私は、夏休み中に、高速道路を使った。サービスイリアのトイレを利用した。水道に、「節水のため、ご協力お願いします。」と書かれた紙が貼り出されていた。水道は、蛇口の太さが細かった。また、私の通っている中学校では水道の蛇口が、センサーに、手をかざすと水が自動で出てきて、手をセンサーから遠ざけると、水を止める働きになっている。私の身の回りでは、節水対策への取り組みが進められていた。しかし、今までは、節水対策とは知らずに対策に協力しなかったことがある。私は、保育園に通っていた時から、ずっと「歯磨きをするときには、コップを使いなさい。」と教わり続けてきた。しかし、私は、コップを使わず、水を出しっぱなしにして歯磨きを続けてしま

っていた。私の行動により、今まで、一回三十秒により約6リットル無駄遣いをしてしまっていた。また、食器洗いの時、水を流しっぱなしにしてしまっていた。その行動により、一回五分間で約六十リットルの水が無駄遣いしてしまっていた。私は、今までやってきた行動が水不足の原因になってしまったことに気づいた。これからは、水の大切さを感じ、節水対策に協力していきたい。

私でも節水対策に取り組めることは、「呼びかけ」、「節水対策を知る」、「節水対策をし続ける」の三つだと考えた。まず、「呼びかけ」についてだ。私は、節水対策をいろいろな先生から教わり続けてきた。そこで、私が、今度は、呼びかけをする人となり、節水対策をする人を増やしていきたいからだ。次に、「節水対策を知る」についてだ。私は、「水」に関する作文を通して、節水対策を知っただけで、まだ節水対策について知らないからだ。最後に、「節水対策をし続ける」についてだ。節水対策は、やり続けないと対策にならないと思ったからだ。私は、対策などすぐにサボってしまうことが多々あった。そこで、簡単な取り組みでも毎日し続けられるようにしていきたいと思った。

作文を通して、水不足、水の大切さ、節水対策について分かった。その中でも、私が水との見方が大きく変わったと思う。今までは水の大切さを知らずに先生から節水対策の取り組みを教わっても時々やらなかった。しかし、水の大切さを知った今、節水対策を多くの人にしてもらえることについて考えるようになった。私は、これから私でもできる節水対策を行っていきたい。そして、世界中みんなが水の大切さを知り、自分から積極的に節水対策の取り組みをする世の中に変えたい。そして、世界中の人々みんなが水で困らない世界を作りたい。

公益財団法人とちぎ建設技術センター理事長賞

【水の大切さ】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 二年

鈴木 美波

私が考える水の存在は、命を支える無くてはならない存在だと考えている。なぜなら、私も水に命を助けられた経験があったり、水に関するニュースを見たりしたことがあるからだ。

まず私が水に助けられた経験についてだ。私がまだ赤ちゃんの時、太平洋沿岸部を中心とした東日本大震災という巨大地震が起こった。その時、地震による停電により水道がでなくなった。また、物資が届かなくなりお店に行っても買える物が無くなってしまっていたらしい。私は当時まだ乳児だった。そのため、ミルクを作るために水が必要だったが、水道からは出てこないし、お店に行っても買うことができない。その時、両親はどうしたら水が手に入るのかとても悩んだという。すると母のスマホに一件の電話がかかってきた。それは、母の知り合いからの電話で、水が職場にあるから届けるという内容だったという。そして、二リットルのペットボトルをたくさん持ってきてくれたらしい。その水を使って私のミルクを作れたのだ。この話を十三才になってから聞いて、水が無かったら命を落としてしまったのかもしれないと思った。そして改めて、飲める水がいつでもあると思ったら大間違いだと思った。

次に、私が見た水に関するニュースについてだ。その内容は、西アフリカ・トーゴの村の水についてだった。まず一番に私が衝撃をうけたのは、毎日八百人もの子どもが汚れた水や不衛生な環境で命を落としているということだ。水道から飲める水がでるのはあたり前と思っていた私は、耳を疑った。そこまでしても汚い水を飲まないと生きられないのか、水を身近で買うことができないのかと思った。そこで、その村がどのような環境で、どんな問題に悩まされているのかということが気になり、調べてみることにした。すると、環境は衛生に関する部分が整っていないと書いてあった。また、問題は女性や若者の働

く場が十分になく貧困から抜け出せないこと、半数以上の世帯では清潔な飲料水の利用ができないことと、おもに書かれていた。私はなぜ清潔な飲料水が利用できないのか気になった。そして調べてみると、池や川、湖などの水源がきちんと整備されていないというのだ。その地域の子ども達はほぼ一日をかけ、飲める水をくみに行っているんだそう。私はこのことを聞き、その国はまず水源の整備にお金を使うべきだと思った。そうすることにより、遠くまで水をくみに行く必要もなくなり、その水をくみに行くことに使っていた時間も学習など他のことに使うことができるようになると思う。そしてなにより、汚水を飲んで病気になる人や死んでしまうという人が減ると思う。だからまず、水源の整備をしつかりし水で困る人を無くした方がいいと考える。私は、この二つの経験から水は命を支える無くてはならない存在であると考えている。水が無いと人間は長く生きることができないと言われる。しかし、水があたり前に手に入る環境に暮らしていると、つい無駄にできてしまっている私達がいると思う。だから、水があるということをあたり前と思わずに、あるということに感謝して使っていくことが大切だと思う。また、こまめに水を止めたり、お風呂の残り湯を有効活用したりと、節水を心がけることも必要だと思う。だが、水をあたり前に使うことのできない国がある。私は、そんな国のために何をするができるのか考えてみた。すると募金をするという案がでた。まだ十四歳の私にできることは限られているが、募金ならできると思う。そのお金で救われる命が増えるといいなと、とても心に強く思った。私は、このようなことがあり水はあたり前ではないということ胸に、水を大切に使っていきたいと考える。

一般社団法人栃木県建設業協会会長賞

【水の尊さ】

栃木県立矢板東高等学校附属中学校 一年 井町 心海

私がこの作文を書くにあたって、改めて「水」というものの重要性について考える機会を得ました。普段の生活では当たり前のように使っている水ですが、その価値や役割について深く考えることは少ないかもしれません。私達の生活や地球環境において水が果たす役割は非常に大きく、その重要性を理解することが必要だと感じました。そこで、水の役割や大切さ、そして私達がどのように水を守っていくべきなのか、この作文で考察していこうと思います。

まず、水の役割を考えてみましょう。水は毎日の飲み水や料理、清掃、さらには農業や工業など、多くの場面で水が使用されています。さらに、水は地球の生態系にも深く関わっています。植物は水を吸収して成長し、動物たちはその植物を食べることで生きています。水がなければ生態系は成立しません。例えば、森林や湿地などの水辺の環境は、多くの生物にとって重要な生息地です。次に水の大切さについて考えてみましょう。水は私達の健康と密接に関連しています。体内の水分が不足すると、脱水症状や運動中だと熱中症などの健康問題を引き起こす可能性があります。従って、適切な水分補給は非常に重要です。私も、部活中に適度な水分をとらなかったため、めまいを引き起こし熱中症になりかけたことがありました。その際に私は、水の大切さを感じることができました。

水は私たちの生活にとって非常に重要なものです。水であるからこそ、私たちは飲んだり、料理したり、掃除したりできます。また、植物や動物も水がないと生きられません。だからこそ、水の大切さを理解して、無駄にしないように心がけることが大切です。

私たち一人一人ができることもたくさんあります。たとえば、シャワーの時間を短くすることや、使わないときは水を止めることなど、日常生活で節水を意識することが大事です。また、地域での清掃活動

やリサイクルを心がけることも水の保護に役立ちます。

さらに、水の大切さを家族や友達に伝えることも重要です。たとえば家族と一緒に節水を考えたり、友達に水を大切にする方法を教えたりすることで、周りの人たちの意識も変えることができるかもしれません。また、小学校で水の問題について学ぶ機会を活かし、水資源を守るためにどうすれば良いのかを、考えてみることも大切です。こうした小さな取り組みが、最終的には大きな変化につながるのです。

水は私たちの未来にとっても非常に重要な資源です。地球上のすべての生き物が水を必要としているため、私たちはこれからも水が無駄にせず、大切に使う責任があります。私たち一人ひとりが水を守るために少しずつ努力を続けることで、未来の子どもたちも安心して水を使える環境を作ることができると思います。だからこそ、水の大切さをしっかりと理解し、日々の生活の中で実行していくことが大切です。

水は単なる飲み物や生活用品ではなく、私たちの命や、未来を支えるために必要不可欠な大切なものです。私たちの行動が未来を変えることができるという意識を持ち、水を大切にすることを心がけましょう。そして、これからも水を守るために努力を続け、持続可能な未来を目指していくことが大切だと思います。

最後とはなりましたが、私はこの作文を通じて、少しでも多くの人に水の大切さを知ってもらいたいと思います。私たちが水を守るために努力を続けることでこれからも水を大切にし、みんなでその価値を伝えていくことが大切です。

栃木県教育長賞

【いつまでもきれいな水を残したい】

私の父は飲料メーカーに勤務している。その飲料メーカーの会社の中で、父はお酒を製造する仕事に携わっている。私はこれまで父の仕事については、なんとなくアルコールを入れて色をつけて味をつけて混ぜているのだろう、というくらいにしか考えていなかった。だが、今回、夏休みの作文課題の中の「水について考える」というテーマを見ていたら、「お父さんの会社は水が重要なんだよ。」と教えてくれ、そこで父から水にまつわる話を聞くことにした。

父の会社は、お酒や飲料水の工場を建てる時には、水がきれいな場所を選んで建てている。それは、なぜかというと、お酒でも飲料水でも製造するときに水が基本で水が味を左右すること。どんなにアルコールを入れようと、どんなにいい茶葉を使って緑茶などを作ろうとしても、水がおいしくなかったり、不快な匂いがしては、おいしい飲み物にはならないと言っていた。私は、水は、水道水でも売られている水でも、どれも味は同じで匂いもしないと思っていた。でも、水にもいろいろあるということを教えてもらった。水には硬度と呼ばれる基準があり、軟水と硬水に分けられる。そして、水の種類もあり、水道水、天然水、ミネラルウォーター、アルカリイオン水など何種類もあるそうだ。その中の天然水はその水が取れる場所によって味も飲んだとき（口に入れたとき）に、柔らかさが違うとのことだった。話を父の会社の話に戻して、以前、テレビドラマで日本人が日本に合ったウイスキーを作るといったドラマを観た。そのとき、ウイスキー作りをするときにやはり水が重要だということであちこち探していた。その主人公は自分の足で山や川、沢を歩き、誰も入っていないような山の奥で滝を見つけ、その滝から落ちて流れてくる水は澄んでいて、とてもきれいだった映像だったことを覚えている。その水がある場所に工場を建てて日本で初めてのウイスキーを作っていた。

栃木市立栃木西中学校 一年 影山 照

「水」は、飲料水としても必要としているが、私達が日々の生活を送るには、なくてはならない重要なものである。「水」がないと生きていけないと言えると思う。私は「水」は自然界からの大切な贈り物だと父からの話を聞いて思った。前でも述べた、ウイスキー作りの主人公が見つけた水も父の会社が工場を建てる条件のひとつの水がきれいなところを選ぶのも森林があるところだと思った。森林、山がないと水もないのだろうと知った。森林、山はそのまま放っておけばいいのかな、人間が入っていかない方がいいのかな、と父に聞くと、そうではないとのこと。適度に木を切ったり、また新しく木を植えて育てなくてはいい森林や山にはならないとのことだった。人の手で森林を育てることも重要だとのことだった。

私達がこれからも「水」を必要とするということは自然環境も大切にしていかなくてはいけないと知ることができた。私に今できることは、ほんの少しの力でしかないだろうが森林に限らず、海や川にごみを捨てたり、油などを流したりしないようにしていきたい。いつまでもきれいな水があり続けるように限りある資源を大切にしていきたい。